

第2学年 算数科学習指導案

指導者 伊藤亜紀子 鈴木 穰
秋元真由美 羽賀 文子
榎 実和子

1 単元名 サンタ・クロスさんからのおくりもの パート1 ~かけ算~

2 目標

- 関：日常の事象の中から乗法が適用できる場面を見だし、乗法によさに気付き進んで乗法を用いようとする。
- 考：乗法の決まりを用いて、2の段から5の段までの九九を構成することができる。
- 表：2の段から5の段までの九九を式に表したり、確実に唱えたりすることができる。
- 知：乗法が用いられる実際の場面や乗法の意味、および2の段から5の段までの九九の唱え方を理解することができる。

3 単元の展開に当たって

(1) 子供の実態

これまで具体物を用いた活動や体験などの算数的活動を通して、数の大小や順序を知り、数の意味や10000までの数の構成について理解できるようになってきた。

1年生では、基礎学習の習熟を図る時間に、1C2Tで少人数学習をしたり、補充・発展学習でコース別学習をしたりすることで、分かる楽しさを味わって達成感が増し、算数の学習に対する意欲が高まっている姿が見られた。

2年生では、日常的にTTを取り入れることで、1時間の中でよりたくさんの子供たちを個別指導を行ったり、より効果的に子供の発言やつぶやきを授業の中で取り上げたりできるようになった。一人一人が自分の考えをもち、それぞれの考えを発表し合うことにより、友達と自分の考えを比べ、考える道筋は一つではないことに気付くようになってきた。また、コース別学習においても、自分で学習を選択したり、めあてを達成するために進んで学習に取り組んだりするようになってきている。

評価については、1年生のときから振り返りカードの活用を継続してきている。はじめは「楽しかった」「おもしろかった」という感想しか書けなかった。現在では、その時間のめあてに合った表現をしたり、分かったことや気付いたことについて書いたりできるようになってきた。

このように、算数の学習の様々な楽しさを知り、意欲が高まってきている。これは、「算数アンケート」の結果からもうかがえる。「算数が好き、どちらかというとき」、「算数が楽しい、どちらかというとき」と回答した子供がそれぞれ約8割であった。

また、乗法については、「かけ算」や「九九」という言葉を聞いたり知っていたりする子供が多く、また九九を唱えることができる子供もいて、本単元の学習に対して大きな期待感をもっている。

(2) 単元について

1年生では、ある量を等分したり、同数累加で全体の数を求めたり、必要に応じてものの個数を2ずつ、5ずつ、10ずつのまとまりをつくって数えたりする活動を通して、かけ算の素地的な経験をしてきた。

本単元では、これらの経験をもとにして、乗法が用いられる実際の場面を通して、乗法の意味について理解できることをねらっている。また、一つの乗法の式から場面や問題をつくる活動を取り入れながら、乗法の式をよむ指導を重視したいと考える。

その後、それぞれの段の九九を子供自らがつくったりするなどの作業的な活動をしながらか、5・2・3・4の段の九九を構成していきたい。また、体験的な活動や身近な生活体験などと結び付けながら、どの段の九九についても十分に習熟し、確実に答えを求めることができるようにしたいと考える。

(3) 支援の方策

本単元では、操作的な活動や体験を多く取り入れながら、子供たちが乗法によさに気付き、進んで用いようとするようにしていきたい。

まず、問題場面では、既習事項をもとにして具体物等の操作や絵、図、式などを用いて各自の方法で考える時間を十分保障する。そして、乗法九九を構成する際も、作業的な活動を通して一人一人が答えの数値の並び方の決まりを発見していくことができるようにしたい。また、乗法九九は、以後の学年で取り扱う乗法や除法における基礎的な技能として欠くことのできない重要なものであるため、楽しみながら繰り返し練習し、確実に身に付けることができるように工夫したい。これらの活動に加え、乗法の学習に対する期待感や意欲が持続できるように、学習シートにストーリー性をもたせていく。

学習形態については、1C2Tの少人数学習を取り入れる。乗法の意味の理解の場面では、それぞれが十分考えられるように学級を半分にした集団、また、乗法の練習場面では個々の習熟に合わせた集団をつくり、一人一人をしっかりと見取り、個々十分支援していきたい。さらに、子供の習熟に合わせて、朝の活動の時間や休み時間などにめあてをもって取り組めるように励ましていきたい。

補充・発展学習においては、4C5Tの小集団・個別学習を行う。お店屋さんをつくって楽しく学習内容の徹底を図るコース、乗法の式に合うように具体物等を用いて乗法場面を表すコース、生活場面から乗法を見つけて解くコース、乗法を使って工夫して式に表すコース

を設定する。楽しく、また難易のあるコースにすることで、子供の興味・関心や習熟度に対応していきたい。

環境面からも、かけ算を身近な生活体験と結び付ける感覚を養いたい。そのため、教室には校内や登下校の途中で見つけた乗法になるものを、絵や写真で掲示するようにする。評価については、自己評価カードを活用し、単元全体における一人一人の情意面の変化を教師がとらえることで、次時の個別指導に生かしていきたいと考える。

4 全体計画（総時数 20 時間）

	小単元	主な学習活動	時間	学習形態	評価の観点			
					関	考	表	知
基礎 学 習	かけ算のしき	<ul style="list-style-type: none"> ・(基準量)×(幾つ分)の考え方を知る。 ・3人ずつ4台分で12人という場面を、式で$3 \times 4 = 12$と表し、「かけ算」ということを知る。 ・5×3の答えの求め方を考えることを通して、乗法の答えは被乗数の累加で求められることを知る。 ・2つ分のことを2倍ということを知る。 	4	小集団学習 (1C2T)				
	5の段と2の段の九九	<ul style="list-style-type: none"> ・5の段の乗法の問題場面を式にかいて求める仕方を考え、5の段の九九を構成する。 ・5の段の九九の唱え方を知る。 ・5の段の九九をカードを用いて練習する。 ・2の段の九九を構成する。 ・2の段の九九の唱え方を知る。 ・2の段の九九をカードを用いて練習する。 	6	学級集団・小集団学習 (1C2T)				
	3の段と4の段の九九	<ul style="list-style-type: none"> ・3の段の九九を構成し、かけられる数、かける数の意味を知る。 ・3の段の九九の唱え方を知る。 ・3の段の九九をカードを用いて練習する。 ・4の段の九九を構成し、乗数が1増えると積は幾つ増えるかを調べる。 ・4の段の九九の唱え方を知る。 ・4の段の九九をカードを用いて練習する。 ・九九表に2の段から5の段までの九九の答えを書き込む活動を通して、九九表の見方を知り、気付いたことを発表する。 	7	学級集団・小集団学習 (1C2T)				
補充・発展学習		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の習熟度や興味・関心に合わせて課題に取り組み、つまづきを直したり、理解を深めたりする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A サンタショップへようこそ！コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～5の段の九九を用いて、お店屋さんごっこをする。 <p>B かけ算てんじ会コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗法の式に合うように、具体物や半具体物を並べたり、絵をかいたりする。 <p>C なかよしQ&Aコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内のものや絵、写真などから、乗法の文章問題をつくったり、友達がつくった問題を解いたりする。 <p>D サンタ・クロスパズルに挑戦コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点で示された図を、乗法を使って工夫して式に表す。 </div> <p>1/2 2/2 1/2 2/2 1/2 2/2 1/2 2/2</p>	2 (本時 2/2)	小集団・個別学習 (4C5T)				
まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめをする。 	1	学級集団学習 (1C2T)				

5 本時の実際 (本時 19 / 20)

[Aコース：サンタショップへようこそ！]

(1) ねらい
2～5の段までの九九を確実に唱えたり、かけ算九九を適用して問題を解いたりすることができる。

(2) 学習過程 (45分) 場所：2年3組 指導者：秋元真由美 (T1) 鈴木 穰 (T2)

学 習 活 動 の 流 れ	教 師 の 主 な 支 援
<p>1 既習の九九を唱え、これまでの学習を確認する。 ・九九の歌 ・かけ算の式 (いくつずつ) × (いくつ分) = (ぜんぶの数)</p> <p>2 本時の学習について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>サンタショップで、クリスマスパーティーのじゅんぶの買いものをしよう。</p> </div> <p>3 お客さんとお店屋さんに分かれて、買い物ごっこの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんは、サンタさんからのカードを読む。そして、カードに式と答えを書いて、買い物をする。答えが合っていたら、買い物したものをその九九の段を唱えながらテーブルに並べる。 ・お店屋さんは、二人一組で、お客さんの書いたかけ算の式と答えと買い物をしてきた物が(いくつずつ) × (いくつ分) = (ぜんぶの数) に並べることができるかをその段の九九を唱えながら確認する。 ・お客さんとお店屋さんの役は、途中で交代する。 <p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>T1は全体の学習を進める。T2は板書を担当したり、一人一人に個別的な支援をしたりする。 「九九の歌」を用いて、テンポよく楽しい雰囲気づくりに心掛ける。 「もとにする量の何倍」というかけ算の意味を板書して確認する。</p> <p>「サンタショップ」の約束を確認する。</p> <p>一人一人に、事前にチェックしていた苦手な九九の問題をサンタさんからのカードに書いて準備しておく。 T1・T2とも、お客さんの役で、やり方が分からない子供に説明したり、お店屋さんの役の子供が正しく答えを確認しているか一緒に確かめたりする。 お客さん役の子供の立式が間違っていた場合、お店屋さんの役の子供がヒントをあげること、お客さん役の子供が正しい式を考えることができるように、お店屋さんの子供にヒントとなるキーワードを準備する。 お客さん役の子供の答えが間違っていた場合、その段の九九を唱えることで正しい答えを出すことができるようにする。 並べ方を確認するときは、必ずその段を二人で唱えながら行うことで、九九の習熟を図ることができるようにする。 答えが合っているか分からないときは、自分たちで確認できるように九九表や答えを準備する。 答えの確認が間違っていた場合、九九表を使って、再度答えを確認することができるように声を掛ける。 確実に速く正しく問題を解いている子供には、被乗数と乗数が順番に出てこない問題が入ったスペシャルカードを用意する。 T1は、机間指導しながら本時のねらいに沿って振り返りを行っているかどうか確認する。T2は、振り返りが書けていない子供に個別にかかわる。 本時の頑張りを称揚し、次時の活動への意欲を高める。</p>

評 価	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	Bに達していない子供への手立て
	<p>被乗数と乗数が順番に出てこない問題を解くことができる。</p> <p>評価方法；行動観察，カード</p>	<p>2～5の段までの九九を確実に唱えたり、かけ算九九を適用して問題を解いたりすることができる。</p>	<p>一つ分の大きさはどれか、幾つ分はどれかを明確にとらえさせるため、「もとにする量の何倍」の図や絵を一緒にカードにかいたり、ブロックで操作活動をしたりする。</p>

[Bコース：かけ算てんじ会]

(1) ねらい
かけ算が用いられる場面を具体物や半具体物を用いて表すことができる。

(2) 学習過程 (45分) 場所：いきいきホール 指導者：伊藤 亜紀子

学 習 活 動 の 流 れ	教 師 の 主 な 支 援
<p>1 既習の九九を唱え，これまでの学習を確認する。 ・九九の歌 ・かけ算の式 (いくつずつ) × (いくつ分) = (ぜんぶの数)</p> <p>2 本時の学習について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かけ算のしきに合うように，ものをならべたり，絵にかいたりしよう。</p> </div> <p>3 かけ算の式を見て，おはじきや数え棒，実物などを，式に合うように並べたり，絵にかいたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきコーナー ・数え棒コーナー ・実物コーナー ・絵にかくコーナー 等 <p>4 学習の振り返りをする。</p>	<p>「九九の歌」を用いて，テンポよく楽しい雰囲気づくりを心掛ける。 「もとにする量の何倍」というかけ算の意味を板書して確認する。</p> <p>主体的に課題に取り組むことができるようにするために，一人一人がコースの学習内容や，学習の進め方が分かるように説明する。</p> <p>それぞれのコーナーごとに複数個，かけ算の式を準備しておく。 式を見て答えを出せないときは，自分で並べたものを見て答えを出すようにする。 二人組になってコーナーを回り，お互いに確認し合いながら学習を進めていくようにする。 二人の意見が違ったときは，ヒントカードを見たり，答えのカードで確認をしたりするようにする。 表したかけ算の場面を見せて説明するチェックポイントを設け，式の意味を言葉でも確かめることができるようにする。 早く回り終わったときは，二人組でお互いに問題を出し合って，もう一度コースを回るようにする。</p> <p>振り返りカードに視点を示し，本時のねらいに沿って自己評価できるようにする。 本時の頑張りを称揚し，次時の活動への意欲を高める。</p>

評 価	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	Bに達していない子供への手立て
	<p>具体物や半具体物を用いて表したかけ算の場面をもとに，かけ算のお話をつくらることができる。</p> <p>評価方法；行動観察，学習シート</p>	<p>かけ算が用いられる場面を具体物や半具体物を用いて表すことができる。</p>	<p>ヒントカードをもとに，(いくつずつ)，(いくつ分)にあたる数が何かを，教師と一緒に確かめる。</p>

[Cコース：なかよしQ&A]

(1) ねらい
写真や具体物などからかけ算の文章問題をつくったり、友達がつくった問題を解いたりすることができる。

(2) 学習過程 (45分)

場所：2年2組 指導者：羽賀文子

学 習 活 動 の 流 れ	教 師 の 主 な 支 援
1 既習の九九を唱え、これまでの学習を確かめる。	九九の歌を歌ったり、2～5の段の九九を唱えたりして、楽しみながらこれまでの学習の復習ができるようにする。
2 「なかよしQ&A」の活動の仕方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">かけ算のもんだいをつくったり、といたりしよう。</div>	活動が進んだ順番でペアをつくり、仲良く活動しようとする意欲をもつことができるように、サンタ・クロスさんやトナカイを用いて楽しい雰囲気づくりをする。これまでに子供たちが書いた「かけ算大発見カード」に出てきた場面を問題にすることができるように、写真や絵、具体物などを用意して、容易に取り組みすることができるようにする。
3 教師が提示した文章問題をみんなで解き、問題文のつくり方や答えの出し方を確かめ合う。	かけ算の問題では「いくつずつ」「いくつ分」「ぜんぶでいくつあるでしょう」という言葉が必要なことを確かめる。棚の縦と横などのように、同じ場面でも見方を変えることでいろいろな問題がつけられることを示し、意欲がもてるようにする。
4 問題づくりをする。	ヒントなしで問題づくりをするか、ヒントに沿って活動するかを選ぶことができるようにする。
5 つくった問題を友達と交換し合い、問題として正しいかを話し合い、答えを出し合う。 ・1問目が終わったら、また個々に問題づくりをして新たなペアで活動する。 ・問題づくりは2問まで。その後は、まだ解いていない友達の問題を解く。	仲良くかかわり合って活動が進められるような声掛けをする。主体的に活動が進められるように、活動の手順や進め方などをあらかじめ知らせておく。
6 全体で、つくった問題や解いた問題を紹介し合い、問題として正しいかを考え、答えを確かめる。	日常的で身近なものについての問題などを取り上げ、かけ算の有用性に気付くことができるようにする。
7 本時の振り返りをする。	振り返りカードに視点を示し、本時のねらいに沿って自己評価できるようにする。本時の頑張りを称揚し、次時の活動への意欲を高める。

	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	Bに達していない子供への手立て
評 価	同じ場面でも、見方を変えて異なる式の問題をつくらることができる。	写真や具体物などからかけ算の文章問題をつくったり、友達がつくった問題を解いたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 問題の形式になっている、穴埋め式のシートを準備しておく。 数え方の単位を示したり、場面に合わせて式を限定したりする。
	評価方法；行動観察，学習シート		

[Dコース：サンタ・クロスパズルにちょうせん！]

(1) ねらい
アレイ図の点の合計数を，求め方を工夫して，かけ算を使った式で表すことができる。

(2) 学習過程（45分） 場所：2年1組 指導者：榎実和子

学 習 活 動 の 流 れ	教 師 の 主 な 支 援
<p>1 既習の九九を唱え，これまでの学習を確認する。 ・九九の歌 ・かけ算の式 (いくつずつ) × (いくつ分) = (ぜんぶの数)</p> <p>2 「サンタ・クロスさんからのお願い」のアレイ図を見て，本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この図の点の数を， 数え方をくふうして， かけ算をつかった式で あらわそう。</p> </div> <p>3 自分なりの方法で，数え方と式を考える。</p> <p>4 考えた数え方の式を発表し，それがどのように考えて式を立てたものが話し合う。</p> <p>・ $2 \times 5 = 10$，$3 \times 3 = 9$，$10 + 9 = 19$ ・ $5 \times 2 = 10$，$3 \times 3 = 9$，$10 + 9 = 19$ ・ $2 \times 2 = 4$，$3 \times 5 = 15$，$4 + 15 = 19$ ・ $2 \times 2 = 4$，$3 \times 2 = 6$，$3 \times 3 = 9$，$4 + 6 + 9 = 19$ ・ $5 \times 5 = 25$，$2 \times 3 = 6$，$25 - 6 = 19$ など</p> <p>5 点の数を12個にして，かけ算を使って合計数が求められるように並べ方を工夫してアレイ図をつくり，式を立てる。 《つくるときやくそく》 ・ 12こ ぜんぶ つかうこと。 ・ 図は1つの形。 ・ かけ算が入っていること。</p> <p style="text-align: center;">$5 \times 2 = 10$，$10 + 2 = 12$ $3 \times 4 = 12$ $3 \times 2 = 6$，$2 \times 3 = 6$，$6 + 6 = 12$</p> <p style="text-align: center;">$3 \times 4 = 12$ $4 \times 3 = 12$ $2 \times 6 = 12$ など</p> <p>6 本時の振り返りをする。</p>	<p>「九九の歌」を用いて，テンポよく楽しい雰囲気づくりに心掛ける。 「もとにする量の何倍」というかけ算の意味を板書して確認する。</p> <p>本時の活動への期待感を高めるように，「サンタ・クロスさんからのお願い」を手紙の形で提示する。 図を見せる時間を短くすることで，全体を一度に把握する必要感をもたせる。 全部の点の数を全体で確認することで，点の数え方とその式に目が向けられるようにする。</p> <p>アレイ図に線を引いてかき込みながら考えられるように，学習シートを工夫する。 1つ考えた子供には，別の方法も考えられないか，声を掛ける。 考えの出し合いを促すため，式だけの発表から，どのように考えたのかを他の子供が予想して，図で説明するようにする。 たし算のみの式の場合は，かけ算が使えないかを考える場を設け，かけ算とたし算の違いを押さえる。 未習の九九を用いるかけ算については，かけ算の意味を押さえ，これに沿ったものであれば認められることを確認する。 点を打つ代わりに自由に移動できるようにおはじきを使い，並べ方を考えやすいようにする。 机間指導しながら，それぞれの考えのよさを認める。 それぞれがつくったアレイ図と式の考え方を交流できるように，できたものを紹介する場を設ける。 同じ形で式が異なるものなど，特徴的なものを幾つか取り上げて紹介する。</p> <p>振り返りの視点を示し，本時のねらいに沿って自己評価できるようにする。 本時の頑張りを称揚する。</p>

評	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	Bに達していない子供への手立て
価	アレイ図の点の合計数を，求め方を工夫して，複数の方法でかけ算を使った式に表すことができる。	アレイ図の点の合計数を，求め方を工夫して，かけ算を使った式で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ かけ算の意味から「同じ数」になっているところに着目するよう助言する。 ・ 図を切ったり折ったりして分けたり，半具体物进行操作したりするように促す。
評価方法；行動観察，学習シート			

6 研究仮説との関連

子供の多様性に対応したコース別学習を設定し、生活に密着した課題や算数的活動を取り入れることにより、自ら学ぼうとする意欲が高まり、学習内容の確実な定着につながるのではないかと。

7 実践を振り返って

個に応じた学習形態の工夫

2年生のかけ算は、3年生以降のかけ算、わり算の基礎となるため、ここでかけ算の意味理解や九九の暗唱を確実にし、たいと考えた。そこで、少人数学習やコース別学習を多く取り入れることにした。かけ算の意味理解の場面では、1クラスを単純に2つに分けて、少人数学習の学習を行った。これにより、全員の発言を引き出すことができた。子供一人一人の理解程度をしっかりとつかみ、それを次の指導に生かすことができた。子供の理解に合わせて各段の習熟を図る場面では、習熟度別に1クラスを2つに分けて、子供の理解に合わせて九九の練習やシート学習に取り組むようにした。習熟度別に分けることで、自分に合った学習を進め、学習を進めることができた。習熟度別の少人数学習は1年生のときから何度か実施して、子供にとっても安心して学習に取り組めるようである。また、補充・発展学習では、かけ算の学習の1つ目の区切りとして、これまでの学習の確かめを含めて、子供の興味・関心、習熟度に合わせて4つのコース別学習を設定した。コース選択は、基本的には子供の意志を尊重した。コース別学習の前に、チェックテストを行い、その結果から、コース選択の視点を示し、自分で決定するようにしたところ、学習意欲を高める姿が見られた。また、コース別学習では、担任以外の教師が指導に当たる場合が多いため、それぞれの子供のかけ算の意味理解や九九の習熟の程度などについて情報交換をした。これにより、一人一人の実態に合わせた問題を準備したり、支援をしたりすることができた。

「サンタショップへようこそ」、「かけ算展示会」は、どちらかというところ補充的な学習として設定した。かけ算の意味理解や九九の習熟がまだ十分でない子供たちが、苦手な部分に重点的に取り組めるようにし、確実な定着を図るようにした。「なかよしQ & A」では、正しい問題をつくることによる補充的な手立てと、人と違った問題をつくりたいという願いをもった子供に対する発展的な手立てとの両方を考えた。「サンタクロスパズルに挑戦」は、発展問題を取り上げた。理解が十分で意欲のある子供にとっては、いろいろな考え方ができるので、工夫することの楽しさや満足感を得ていた。

子供たちはみんな、「分かりたい」、「もっとできるようになりたい」、「もっと難しい問題に挑戦したい」という意欲をもっている。一人一人の子供の意欲に応えられるような学習形態を工夫し、きめ細かな手立てをしていくことで、子供は充実感を持ち、さらに次への意欲が高まるものと思われる。

かけ算の意味理解を確実にするための算数的活動

かけ算の意味を確実に把握できるように、算数的活動を多く取り入れ、以下のようなことをかけ算の意味理解の場面だけでなく、単元を通して繰り返し指導した。

- ・ 具体物や半具体物、絵などを見て、かけ算場面を見付ける（式に表す）こと。
- ・ 式に合うように、おはじきを並べたり、絵や図をkaitたりすること。
- ・ 生活の中からの問題を取り上げたり、子供たちが見付けたかけ算を発見カードにかいて教室に掲示したりすること。

上記のコース別学習でも、これまでのシート学習中心のものから算数的活動を多く取り入れたコースにした。単元を通して算数的活動を積極的に取り入れたことにより、かけ算を生活場面と結び付けて身近な問題としてとらえることができ、楽しみながら感覚的にかけ算の意味を理解できた。また、繰り返し指導することで、意味理解を確実なものとすることができた。

評価の工夫

単元全体を通して振り返りカードで情意面、認知面の振り返りと感想の記述による自己評価を取り入れた。このような振り返りカードは、1年生のときから活用を継続してきている。初めは「楽しかった」、「おもしろかった」という感想を書く子供が多かったが、振り返りの観点を示したり、友達の感想を紹介したりすることを続けてきた結果、今では、その時間のめあてに合った表現をしたり、分かったことや気付いたこと、友達の考えなどについて書けるようになってきている。

また、1クラスを2つに分ける少人数学習を多く取り入れたので、指導者間で各時間ごとの観点を沿って評価規準を具体的に明らかにして、確認し合いながら評価の記録をし、単元を通して評価へとつなげた。毎時間の自己評価と学習状況や評価の情報交換の結果、子供一人一人の情意面の変化や理解の度合いなどを教師がとらえ、次時の個別指導に生かすことができた。今後は、日常的に継続できる評価へとさらに工夫していきたいと考えている。